

科目	環境水工学I (Environmental Hydraulic Engineering I)		
担当教員	玉井 昌宏 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・1単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(50%) A4-S4(50%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	治水と水資源に関する河川計画手法の概要について講義する。河川とは何か。我が国の河川の特徴、河川計画の基礎となる降雨データの分析方法、流出現象と流出モデル、治水、利水事業の歴史の変遷と計画策定方法について講義する		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-S2】河川とは何か。我が国の河川の特徴について理解できる。		河川とは何か。我が国の河川の特徴について、中間試験で評価する。
2	【A4-S4】水循環現象と我が国の降雨特性、DAD解析が理解できる。		水循環現象と我が国の降雨特性、DAD解析を中間試験で評価する。
3	【A4-S2】流出過程と流出モデルについて理解できる。		流出過程と流出モデルについて中間試験で評価する。
4	【A4-S2】降雨データの分析方法と確率水文学の推定方法が理解できる。		降雨データの分析方法と確率水文学の推定方法を定期試験で評価する。
5	【A4-S4】治水事業の歴史の変遷と計画手法の概要について理解できる。		治水事業の歴史の変遷と計画手法の概要について定期試験で評価する。
6	【A4-S4】利水事業の歴史の変遷と水資源計画手法の概要について理解できる。		利水事業の歴史の変遷と水資源計画手法の概要について定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100% として評価する。中間試験、定期試験の成績合計平均点で評価する。100点満点で60点以上を合格とする		
テキスト	「河川工学」：室田明編著（技報堂出版） 配付プリント		
参考書	日本河川協会編，建設省河川砂防技術基準（案）同解説，山海堂 土木学会編，土木工学ハンドブック（技報堂出版）		
関連科目	水理学		
履修上の注意事項	テキストの内容に沿った講義を行なうので、当該箇所を予習しておくこと。また、水理学や数学、物理の知識を有するので理解しておくこと		

